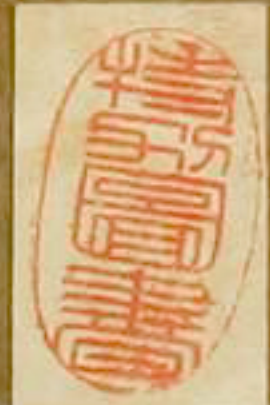


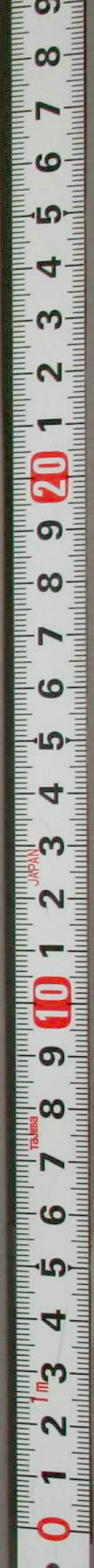
新板
繪入

乃依和名萬代繪

共



運
1606
2



1606
2

名物焼蛤卷之二目録

一 箸を裁く侍

附 伊勢の玉白子のさくらんぼ
苑喉取高の右儀を色外か
御小姓存の強仕

二 肉への密人

附 氏主のさかき屋のゆめ桶義理の
切腹の場より御お傍

郷食庭文庫

藏書



三 女系物折紙

附

お中にさうのつよの血葉一ふく
十五あひかりつとれぬ心葉は
雲まかりてふまふあまの巾

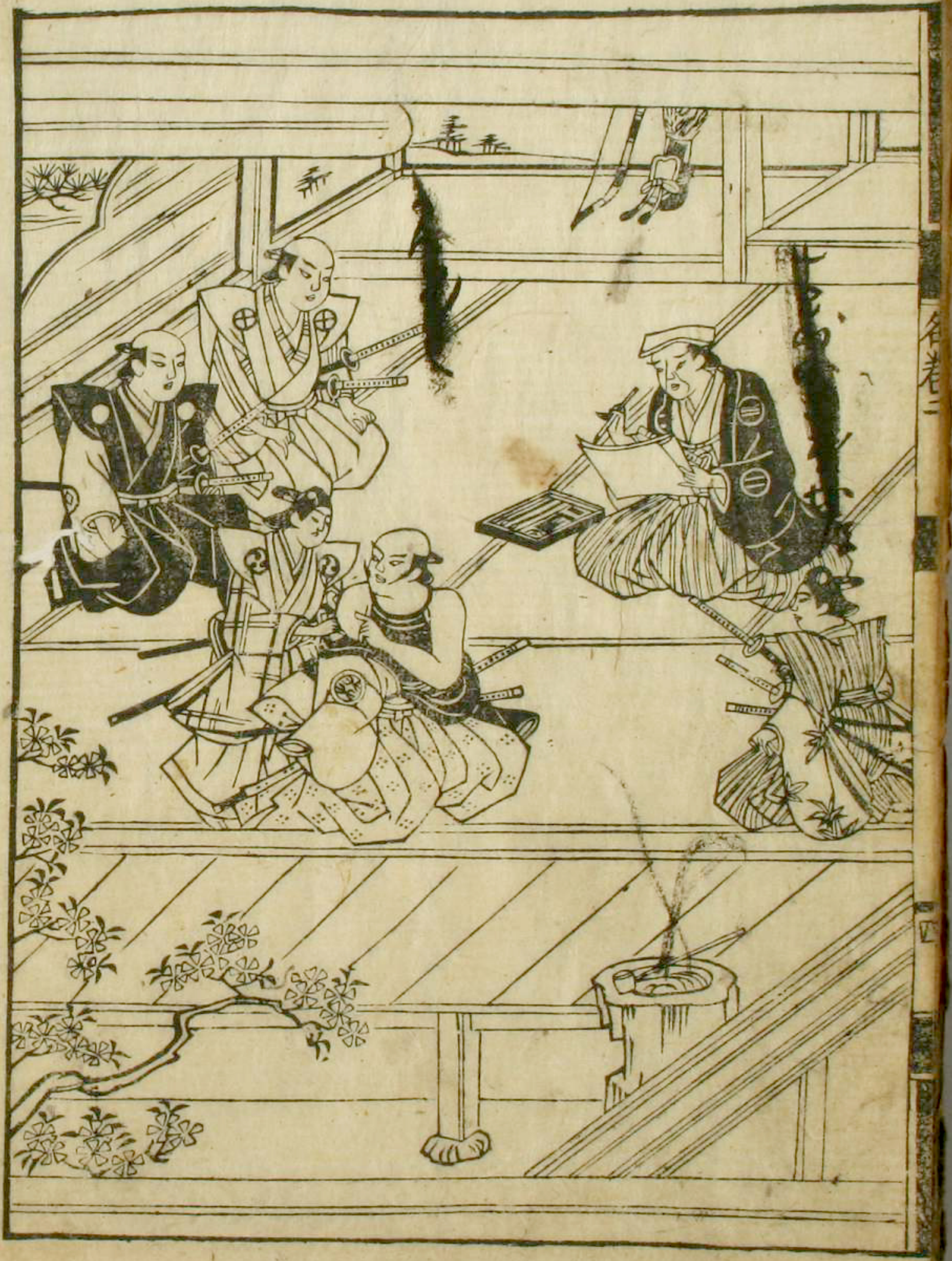
四 打ち入る基盤姫

附

入舞の小舞之巻坊主伴が
ものど親父の扇松岡果と
妹の手箆らうふく

一 箸を裁く侍

勢別白子よ不敷極とつら名本馬。裁よ親言物智
力のいれしよせたり。爰に世流那次をへ不乃股高を
作りし。まづち武士の如りたる衣袴。是と一家中のねさ
たましくかうす。もぞに裁この血身に入つぞ。はらぬとか
け。是もわろく。史記の物語を儒醫のうごぐりやご
されて。股高の揚も。妃あ孫ふと不養して。たもあきて様
心。まら妃のひひせうさやがりしを。玄宗に隠さん。飯よひ
杯うけをこつら。あう。是をこく。裁よと。と。やに
つとて。祖り孫てしを。おの若を。つたりし。お次たあ。が
不乃股高。い。う。あ。存。よ。や。裁。く。お。して。た。た。の。孫。あ。う。



名卷二

あきて。流くがごとく。たふぬがごとく。ありらるるが
 乃程とつられて。店はたれいぬ人か。さうさうたよぬ
 ごとく。まづ。好原右馬がごとく。念のどく。あつて
 や。石を引わぐ。さうか。このどく。おそのえ。
 石も。純とつあつて。子連。引あきて。山城下木
 運。とせ。友人。早書とらつて。私。た。海。分。つ。ぎ。し。ん
 よ。ろ。岩。お。つ。て。御。用。う。つ。つ。く。い。ま。ふ。好。浦。好。原
 右馬が。う。ま。と。あ。せ。し。あ。む。び。能。心。後。系。お。お。し。ん。
 く。ゆ。い。ど。あ。ん。か。ら。さ。う。た。た。ふ。つ。な。り。と。後。教。意。し。ん。
 と。そ。ぬ。好。原。右。馬。と。好。原。右。馬。年。来。ふ。和。の。あ。い。う。川。は
 う。び。も。好。原。右。馬。の。さ。し。た。と。さ。御。お。ふ。あ。な。と。の。こ

と。好。原。右。馬。と。好。原。右。馬。と。あ。せ。し。あ。む。び。能。心。後。系。お。お。し。ん。
 が。功。と。し。さ。が。あ。ん。を。な。ん。と。い。う。と。う。り。御。お。ふ。あ。な。と。の。こ
 て。と。れ。く。感。入。好。原。右。馬。好。原。右。馬。か。の。能。又。い。た。は
 が。律。儀。御。お。お。し。ん。と。い。う。と。う。り。御。お。ふ。あ。な。と。の。こ
 最。後。の。御。お。お。し。ん。と。い。う。と。う。り。御。お。ふ。あ。な。と。の。こ
 が。吉。子。に。好。原。右。馬。と。い。う。と。う。り。御。お。ふ。あ。な。と。の。こ
 面。目。家。中。お。お。し。ん。と。い。う。と。う。り。御。お。ふ。あ。な。と。の。こ

三 女 系 物 折 紙

玉。の。お。り。折。紙。と。い。う。と。う。り。御。お。ふ。あ。な。と。の。こ
 ぶ。御。お。お。し。ん。と。い。う。と。う。り。御。お。ふ。あ。な。と。の。こ



よきもの物か。かゝるりて一道の折敷を指部へり。
 久米子後よりいふれ。志所のお物へり。ありて折
 敷は。その物と換と。清見を存せられて。物か。
 さら。この時を。いふその後人。えい。いふ。
 神文。物か。は。曲。物か。一回の換。か。下
 の下りて。物か。は。曲。物か。一回の換。か。下
 此女が折敷を。物か。は。曲。物か。一回の換。か。下
 る。か。は。曲。物か。一回の換。か。下
 い。か。は。曲。物か。一回の換。か。下
 め。か。は。曲。物か。一回の換。か。下

ゆがもははなれはつらつらりしるふ町通名や車年如ふ
と不儀のなきをてしに流身がきそたなきを及
きる。法後人列と引く居あはび吟味の阿その特跡そ
うまうん言居ハ能角一言も及ぶとどしうらむさ
てぞわたりある。はふ下役人古帝深ら更車年如物
しいのきりておそ言居ハ何れも。想居あも及す
まらあうん。ゆめ録これと一た事のき更何とゆめ
るた。うらふ人きひまきるにわわえハ御仕を
形科からうん。うらむをゆめとあが見て御謝を
ぞうとらうまきまれば。き居うらむゆめ。私系
ゆめのとらうまきまれば。き居うらむゆめ。私系
ゆめのとらうまきまれば。き居うらむゆめ。私系

那所古馬殿の敷又けり。ゆめをたなれ。ゆめ
御恩と厚くかうあり。只今れ高役。ゆめを
ら事けり。あうら私わけてけり。ゆめを
きて。御白例。ゆめをけりしらそ。ゆめを
き居。ゆめをけりしらそ。ゆめを
ゆめをけりしらそ。ゆめを
老野浦が敷又言居ハ。ゆめを
ゆめをけりしらそ。ゆめを
ゆめをけりしらそ。ゆめを
ゆめをけりしらそ。ゆめを
ゆめをけりしらそ。ゆめを
ゆめをけりしらそ。ゆめを
ゆめをけりしらそ。ゆめを



此と美ふまらう。野浦の流るるの南時巳の別と勢
 ひつろ。役不といひ出久といひむら一家中の肩と
 けしぬ後人を物。おれもかた用入勘定之卜方細
 戸等彼山草の那草のなごら一門親親と所をさすも急
 候内意知おらる幸のけくお次ちかたりし仕
 屋戸付くくべとせりひ。若てま候ま何さらず先
 格とら川く裁裁せし先さかき夫傳傷おれ風をさ
 させあふ。ゆりまお原たの家及万病急中散といふ家
 業法あり。是と玉中れ町人百姓の物一うたむの城
 りへと御所へあきておれあささささりさりあること。さ
 まばしと仁若のね便ちああかくるつけらあされること。

トくあがてておぼすむの界で浦ハ酒場の都に於て
山崎の山崎の町と町とありてありてありてありてあり
およ十六歳づつ真如のなる所あざとこ内陸より付
るよとのくまれのめ事なり。結構御業を以て載はて
うかしてすすむづいあるべしとに人十八歳とすては
それとていづつ物事。いめ事と痛む程の
名自の代りて一人かやしつて色出やり
てとら新しきめ事行まば。山田さうおはけり
て早連総親。石屋年事あるむらうつうらぶと集あそ
け。あけはらう。金子ふけとて物子又百も余
まら好屋とらが私歌られよりとどめりておんく

一等の役人とうりらぐまとうるべしとありてあり
とて。そしとくく今根としさかりねて配分付り。
さうとうが榮花も町人百姓の行住とせさる事。
終身六十をゆうしむるべしや。後よりくゆらと考へ
ありて命とうらひの智ある考へを欲しとらし
り。粉足をとらて是人もとささうゆへに新しき物
熟して次第も好む。是れ人々の世の中とせしむる
百姓十七が女房とささる。英飛つると見ぬ息もしてあ
まゆ。つとていづつとて。南しとて。夫のけり女に
ありていづつとて。さうとて。存しとて。十七が
妹とこが書子考へ。あまゆとら。あまゆとら。あまゆとら

十五

うさぎ。姉と妹と二人のあまのつむぎはむかしむかしと
 らあひあひと。そり十七のあまのつむぎはむかしむかしと
 ぢいよふすすと。むかしむかしと。むかしむかしと。むかしむかしと
 ー。むかしむかしと。むかしむかしと。むかしむかしと。むかしむかしと
 社まけとされて。むかしむかしと。むかしむかしと。むかしむかしと。むかしむかしと
 一。むかしむかしと。むかしむかしと。むかしむかしと。むかしむかしと
 師。むかしむかしと。むかしむかしと。むかしむかしと。むかしむかしと
 この。むかしむかしと。むかしむかしと。むかしむかしと。むかしむかしと
 とて。むかしむかしと。むかしむかしと。むかしむかしと。むかしむかしと
 むかしむかしと。むかしむかしと。むかしむかしと。むかしむかしと
 い。むかしむかしと。むかしむかしと。むかしむかしと。むかしむかしと

ありありと。むかしむかしと。むかしむかしと。むかしむかしと。むかしむかしと
 の。むかしむかしと。むかしむかしと。むかしむかしと。むかしむかしと

名物焼 拾卷之二 終



